

第 21 回「災害と健康」学際研究推進セミナーを開催しました (2019/5/29)

テーマ：熊本地震における災害時保健医療活動を経験して～マネジメント体制、支援と受援の在り方を考える～
場所：東北大学医学部 6 号館 1 階講堂

2019 年 5 月 29 日(水)、東北大学医学部 6 号館において、第 21 回「災害と健康」学際研究推進セミナーを開催、熊本県天草広域本部保健福祉環境部部長（天草保健所長、前阿蘇保健所長）服部希世子先生をお招きし、「熊本地震における災害時保健医療活動を経験して～マネジメント体制、支援と受援の在り方を考える～」をテーマにご講演を頂戴しました。

服部先生は平成 28 年熊本地震の際、所長として赴任して間もない阿蘇保健所において「阿蘇地区保健医療復興連絡会議（Aso Disaster Recovery Organization: ADRO）」を本震 4 日後に立ち上げ、支援者と一丸となって阿蘇医療圏の二次的健康被害予防に従事されました。

大規模災害時における保健医療対策として「医療提供体制の再構築」、「保健予防活動」、「生活環境衛生対策」の 3 つがあります。これら対策の基本は平時の保健所業務と同じですが、災害という非常事態においては組織体制、情報の流れ、支援者の受け入れなど、平時と比べて周りの環境が大きく異なる点が混乱を招く要因となります。

本震後からの阿蘇保健所の動き、そして ADRO の立ち上げとその活動について、ご自身のリアルな経験談も交え、熱心にご講演を頂きました。参加者からは「熊本地震被災地の医療実情を初めて聞いた思いだ」「被災地での受援がいかに大変で、いかに重要かを思い知った」などのコメントが多く上がりました。

今後も被災地同士である熊本、宮城の知見を集約すべく交流を重ねていく予定です。



フロアからのコメントを受ける服部希世子先生



石巻での経験を話す石井正教授（医学部）と江川教授



宮城県庁や保健所からも聴衆が来場